

大分県スポーツ推進計画改訂版

～チャレンジおおいたスポーツプラン2016～

における具体的な取組一覧表について

## —目次—

### 健康・体力・人づくり

- 1 幼児期・少年期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 1
- 2 青年・壮年期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 3
- 3 高齢期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 4
- 4 障がい者スポーツの推進・・・・・・・・・・ 5
- 5 競技力向上対策の推進・・・・・・・・・・ 6

### 活動の場づくり

- 1 総合型地域スポーツクラブの推進・・・・・・・・・・ 8
- 2 ライフステージに応じたスポーツイベントの充実・・・・・・・・・・ 9
- 3 地域の特性を活かした活動の場の充実・・・・・・・・・・ 10
- 4 学校スポーツ施設の充実と有効活用・・・・・・・・・・ 11

### システムづくり

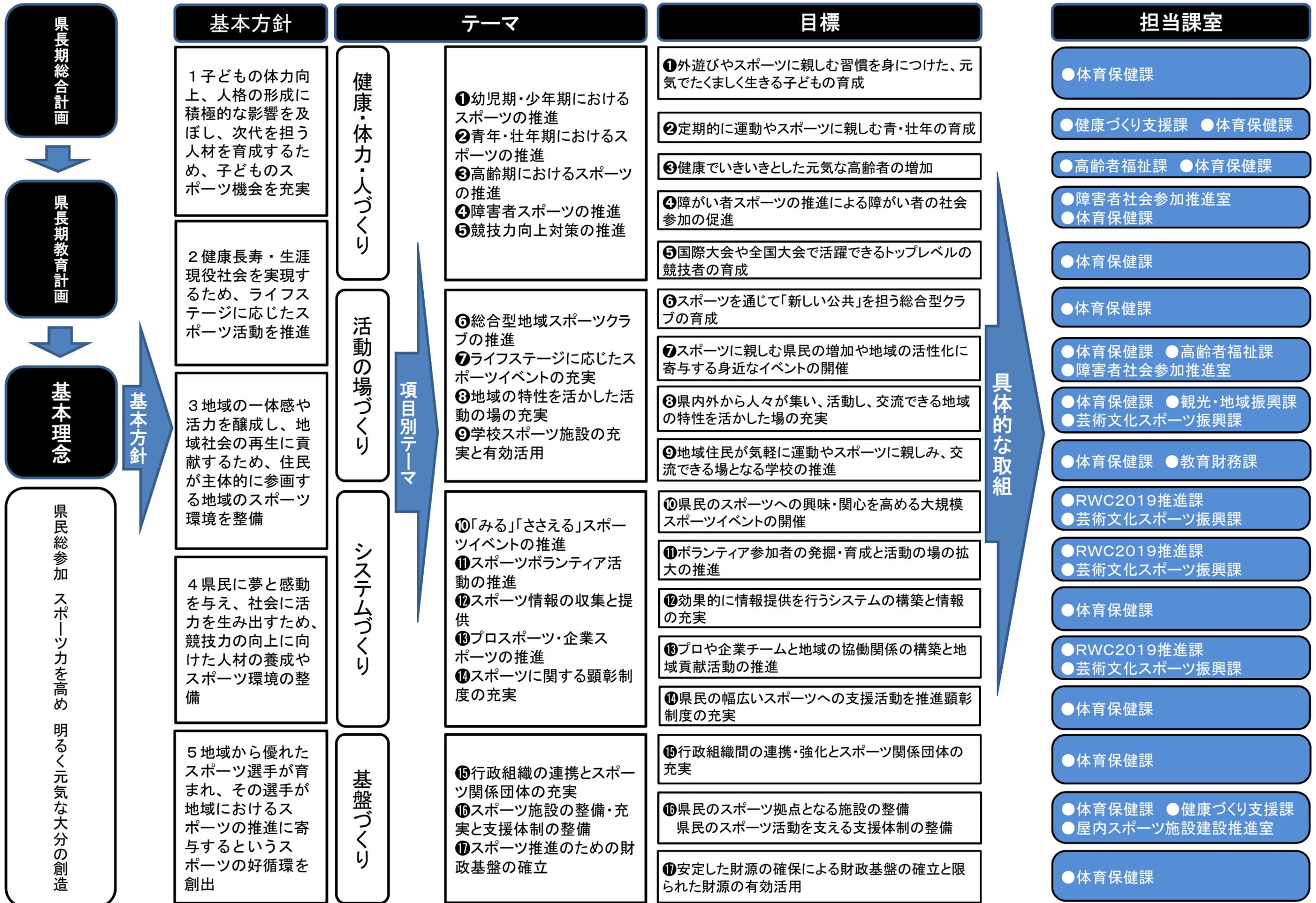
- 1 「みる」「ささえる」スポーツイベントの推進・・・・・・・・・・ 12
- 2 スポーツボランティア活動の推進・・・・・・・・・・ 14
- 3 スポーツ情報の収集と提供・・・・・・・・・・ 15
- 4 プロスポーツ・企業スポーツの推進・・・・・・・・・・ 16
- 5 スポーツに関する顕彰制度の充実・・・・・・・・・・ 17

### 基盤づくり

- 1 行政組織の連携とスポーツ関係団体の充実・・・・・・・・・・ 18
- 2 スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備・・・・・・・・・・ 19
- 3 スポーツ推進のための財政基盤の確立・・・・・・・・・・ 20

# 大分県スポーツ推進計画改訂版

## ～チャレンジ！おおいたスポーツプラン2016～ 概要について



具体的な取組

## 【幼児期・少年期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>学校、家庭、地域が連携した多様な活動を体験する中で、自ら運動する意欲を培い、積極的に外遊びやスポーツに親しむ習慣や正しい生活習慣を子どもに身につけさせることにより、元気でたくましく生きる子どもたちを育成する。</p>		
<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力テスト結果で、総合評価C以上の割合を、平成32年度までに小5男子77.2%、小5女子81.0%、中2男子75.2%、中2女子87.8%とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成30年度	(目標値：平成32年度)
小5男子 75.8%	小5男子 82.3%	小5男子 77.2%
小5女子 78.1%	小5女子 86.9%	小5女子 81.0%
中2男子 72.0%	中2男子 80.6%	中2男子 75.2%
中2女子 84.2%	中2女子 91.8%	中2女子 87.8%
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①幼児期から子どもの体力向上方策の推進 【体育保健課】	○小学校教員の研修で、幼稚園等との接続の観点から、「遊び」を重視した低学年の授業づくりの研修を実施することができた。 ●小学校低学年の担当教諭や、幼稚園教諭を対象とした体力向上会議等の実施が必要である。 □体力向上会議の内容について、主催する市町村と連携した取り組みを行っていく。	P 11
②学校体育の充実 【体育保健課】	○体育授業、「一校一実践」の工夫改善に取り組み、総合評価C以上の割合が増加し、児童生徒の体力が着実に向上できている。 ●全体的に8割から9割はあるが、平成26年度以降増えていない児童生徒の運動愛好度が課題である。 □「運動することが好きではない」児童生徒にも楽しめる活動となっているかという観点での指導・助言を行っていく。	P 12
③運動部活動の充実 【体育保健課】	○単独での指導や引率が可能な部活動指導員制度の導入を行った。 ○運動部活動の在り方に関する県の方針を策定した。 ○部活動指導員、外部指導者対象の研修を実施した。 ●合理的でかつ効率的・効果的な活動推進が必要である。 ●熱中症対策等の危機管理を徹底する。 □課題や実態に即した研修を行う。 □市町村、各学校での方針策定及び実施を促す。 □ガイドライン取組状況調査を実施する。	P 12

<p>④子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実</p> <p>【県体育協会】</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○スポーツ少年団では、指導者や保護者を対象とした倫理観向上やスポーツ外傷等の防止に向けた研修会を県、ブロック単位で開催しており、指導者の資質向上や日常の活動を支える母集団の意識高揚につながっている。</p> <p>(体協)</p> <p>○総合型クラブと連携し、子ども・大人・高齢者・障がい者が一堂に会して、様々なスポーツを体験することができる「総合型地域スポーツクラブ交流会」を実施した。</p> <p>□次年度は、総合型クラブと民間企業が連携し、県立武道スポーツセンターで実施予定である。</p>	<p>P 13</p>
<p>⑤食育の充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○朝ごはんのとり方や運動をすることに対し、児童生徒の意識は高まっている。</p> <p>●学齢期のほとんどの年代で、肥満傾向児出現率が全国平均を上回っていることから、地域・学校・家庭の連携の在り方が課題である。</p> <p>□推進地域や推進校による取組の好事例をまとめ、県内全域に活用を促す。(実践事例集の配布)</p>	<p>P 13</p>

## 【青年・壮年期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>個人の運動やスポーツへの主体的な取組の推進とライフステージに応じたスポーツ環境の整備、また、関係部局等と連携した取組を通して、定期的にスポーツに親しむ青・壮年を育成する。</p>		
<p>成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率を、平成32年度までに51.2%とする。</p>		
(基準値：平成25年度)	平成30年度	(目標値：平成32年度)
40.5%	50.9%	51.2%
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①地域や職場におけるスポーツの推進</p> <p>【健康づくり支援課】</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○みんなで延ばそう健康寿命推進月間中の運動イベント数は年々増加し、スポーツに親しむ機運が高まってきた。</p> <p>●さらなる機運醸成が必要である。</p> <p>□市町村、関係団体（総合型クラブ等）と連携し、月間中の運動イベント拡大と参加者の増加を目指す。</p>	P 15
<p>②総合型クラブへの加入促進</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○手軽な運動プログラムの提供及び指導者を育成し、新たな教室やイベント開催に伴い、会員が増えたクラブがある。</p> <p>●各ライフステージのニーズに応じた教室の展開と指導者の確保・育成、実施時間帯の工夫、総合型クラブの認知度向上などに課題がある。</p> <p>□商業施設などに出向き、民間と連携して認知度を高める活動や、ファミリー層へのアプローチなどを行っていく。</p>	P 15
<p>③青・壮年層を取り巻くスポーツ環境の充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○総合型クラブの教室において、託児機能を有した子育て世代向けの教室を展開しているクラブがある。</p> <p>●公共スポーツ施設の利用時間帯の延長等、施設管理側の勤務対応も含め、管理規則などの見直しが必要となる。</p> <p>□総合型クラブを通じて、民間スポーツクラブの人気講座など、青・壮年層を対象にしたイベントや教室を開催する。</p>	P 15
<p>④職場や関係機関等と連携した取組</p> <p>【健康づくり支援課】</p>	<p>○主に働く世代の運動習慣定着に向けた健康アプリ「おおいいた歩得」の本格運用を開始した。アプリダウンロード数は26,000人を突破（12月末日）した。職場対抗戦には、156事業所226チームが参加。職場ぐるみの健康づくりにつながった。</p> <p>●20～30代の若い世代への普及が必要である。</p> <p>□健康に直結するウォーキングや運動施設利用時のポイント設定の見直し、スタンプラリー機能の追加等アプリの魅力アップを図り、利用者拡大に取り組む。</p>	P 15

## 【高齢期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>スポーツイベントや健康教室の開催、指導者の養成と効果的な運動プログラムの普及、健康・体力づくり等に関する情報提供などを行い、スポーツを通して健康でいきいきとした元気な高齢者を増やすことで、健康寿命の延伸を図る。</p>		
<p>豊の国ねんりんピックの参加者数を、平成 32 年までに 5,900 人とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 30 年度	(目標値：平成 32 年度)
5,498 人	5,439 人	5,900 人
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①高齢者の健康・体力づくりの推進 【高齢者福祉課】</p>	<p>○市町村及び競技団体と連携し、豊の国ねんりんピックを開催するとともに、公益財団法人大分県老人クラブ連合会が主催する老人クラブスポーツ大会を支援している。今後関係機関と連携し、参加者の増加を図る。</p> <p>○運動を中心に活動をしている県内グループ等を対象に交流大会（介護予防に取り組む個人・団体の表彰や活動報告、講演や実技等）を開催した。</p> <p>□特に、自分が住む地域の住民やグループの活動が表彰されることは、健康づくりへの気運の醸成につながったため、次年度も継続して開催予定である。</p>	P 17
<p>②総合型クラブへの加入促進 【体育保健課】</p>	<p>○「貯筋運動サポーター」を約 100 名養成し、高齢者に魅力あるプログラムを総合型クラブで実施している。</p> <p>□今後は、「貯筋運動サポーター」を中心に、貯筋運動の教室にバリエーションを加えられるような運動種目の指導者を養成する。</p>	P 17
<p>③指導者の養成とプログラムの普及 【体育保健課】 【高齢者福祉課】</p>	<p>○県内市町村と連携しながら、「めじろん元気アップ体操（運動機能向上プログラム）」を主軸に、体操の普及（指導者の派遣・研修会の開催・パンフレットの配布等）と住民主体の通いの場の拡大を推進した。</p> <p>○上記に加え、介護予防ボランティア・リーダー、民生委員等を対象に市町村または圏域別に研修会を開催し、地域における介護予防活動の一層の充実を図った。 (延べ参加者数：約 2,000 人以上の見込)</p>	P 17
<p>④健康・体力づくりなどの情報提供 【高齢者福祉課】</p>	<p>○生活不活発病や口腔機能向上、栄養改善など、介護予防に関する情報を発信した。（ホームページへの掲載や普及啓発媒体の配布）</p> <p>①めじろん元気アップ体操・お口元気体操のパンフレット（市町村を通じ年間約 15,000 部の配布）</p> <p>②地域の介護予防活動支援マニュアル（介護予防のポイントをまとめた冊子を研修会の参加者に配布）</p>	P 17

## 【障がい者スポーツの推進】

目標		
<p>障がい者の多様なニーズに対応できる指導者やボランティアを養成するとともに、障がい者スポーツにおける競技力向上を支援する。また、障がいの程度に応じてスポーツに親しめる環境を整備するとともに、ユニバーサルスポーツを普及し、障がい者スポーツの推進による障がい者の社会参加を促進する。</p>		
<p>大分県障がい者スポーツ大会への延べ参加者数を、平成32年までに2,802人とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
2,502人	2,065人	2,802人
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①障がい者のスポーツ機会の拡充</p> <p>【障害者社会参加推進室】</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○総合型クラブやNHK等と協働し、障がいのある人もない人も楽しめるスポーツイベントを開催した。地域の学校と障がい者施設が定期的にスポーツ交流を深めている好事例がある。</p> <p>□地域におけるスポーツ活動の拠点づくりを進める（学校等のスポーツ使用目的の開放など）</p> <p>○県民すこやかスポーツ祭では、身体障害者アーチェリー体験会・障がい者ボウリング大会、ボッチャ交流会を実施した。</p> <p>□障がいのある方が参加できる大会の増加を関係団体に働きかける。</p>	P 19
<p>②障がい者のスポーツ環境の整備</p> <p>【障害者社会参加推進室】</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○障がい者スポーツ指導者養成講習会を障害者スポーツ指導者協議会主催で開催している。</p> <p>○競技団体と連携し、卓球バレー指導者講習会をSCおおいネットワーク主催で開催した。（連盟公認指導者育成）</p> <p>●受講者数の確保。</p> <p>□今後も、障害者スポーツ指導者協議会と連携し、障がい者スポーツ指導者の養成を図る。</p> <p>□SCおおいネットワークと連携し、卓球バレー等の指導者が活動できる大会やイベントを実施する。</p>	P 19
<p>③障がい者スポーツの競技力向上</p> <p>【障害者社会参加推進室】</p>	<p>○全国的に競技レベルが向上してきているが、その中でも障がい者スポーツの先進県として、さらなる障がい者スポーツの振興を図る必要がある。上記①、②の取組を通じ、スポーツ人口の裾野の拡大と競技力向上の2方面から進めていきたい。</p>	P 19
<p>④障がい者スポーツの優秀選手の支援</p> <p>【障害者社会参加推進室】</p>	<p>○東京2020パラリンピックに向けて、出場が期待される大分県内出身又は在住の選手6名を強化指定選手に指定し、強化活動費を支援している。指定選手は、全員が国際大会に出場しており、出場した大会ではメダルの獲得や表彰を受けるなどの成果を出している。</p>	P 19

## 【競技力向上対策の推進】

目標		
組織の整備・充実、指導体制の充実・強化、選手の発掘・育成・強化、諸条件の整備などの取組を通して、国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者を育成する。		
高校生の全国大会における上位入賞者数を、平成 32 年度までに 100 とする。		
(基準値：平成 26 年度)	平成 29 年度	(目標値：平成 32 年度)
93	101	100
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①組織の整備・充実 【体育保健課】 【県体育協会】	○関係競技団体と毎年 2 回のヒアリングを実施し、P D C A サイクルの徹底に取り組むことで組織体制の強化につながっている。 ●組織の更なる整備・充実に向け、団体内で検討が必要。 □国民体育大会に向けた「チーム大分」としての取り組みを推進し、組織の活性化と体制強化をめざす。 ○ガバナンス研修会や拠点指導者研修会などを通して最新情報を提供し、組織の活性化を促進している。 □競技団体とのヒアリングを通して、指導体制について協議を重ねていく。	P 20
②指導体制の充実・強化 【体育保健課】 【県体育協会】	○平成 30 年 10 月現在、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録者数が 2,030 名となり、平成 28 年度からの 2 年間で 93 名増加となっている。 ●中学校の運動部活動における優秀指導者の適正配置が進んでいない。 □一貫指導体制の整備を、競技団体・学校体育団体・県体協と連携し、構築に向けて取り組んでいきたい ○指導者の資質向上に向けた義務研修会を実施した。 □引き続き、倫理面やスポーツ医科学の視点から指導者の資質向上を推進する。	P 21
③選手の発掘・育成・強化 【体育保健課】 【県体育協会】	○育成選手第 1 期生が高校に入学し、インターハイ、国体出場など着実に成績を残している。 ●育成選手から日本一、日本代表選手を輩出するため、関係競技団体へのパスウェイ後の育成・強化システムの整備が必要である。 ●参加者数増に向けた、募集、広報等の工夫が必要。 □今後も小学 6 年生を対象に募集、選考の上、優秀な運動能力を有したジュニア選手を発掘する。 ○ジュニア選手発掘支援として、平成 29 年度は 15 団体、30 年度は 17 団体に交付した。 □競技人口の拡大に向けて更なる事業の充実が必要と考えられる。	P 21

<p>④諸条件の整備</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○競技者を対象にスポーツ医・科学（メディアカルチェック・体力診断及びドーピング研修会等）を活用した総合的なサポート体制により、競技者のパフォーマンス向上につながっている。</p> <p>○「アスナビ」の就職支援で優秀な成年選手が企業からのサポートを受け、県内で強化に取り組んでいる。</p> <p>●スポーツ医・科学の充実に向け、関係機関との連携が必要である。</p> <p>●就職支援企業の拡充が必要。</p> <p>□スポーツ医・科学、就職支援に関する取り組みを継続的に実施し、内容の充実に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>○毎年ドーピング防止研修会を開催し、加盟競技団体担当者を通して、啓発活動を行っている。国体結団壮行式時もドーピングについての最終確認を行っている。現時点で県内関係者からドーピング違反者は出ていない。今後もあらゆる場面において周知していきたい。また、医科学委員会の充実も推進していきたい。</p>	<p>P 21</p>
--	--	-----------------

## 【総合型地域スポーツクラブの推進】

目標		
<p>総合型クラブの未育成地域における新規創設や、育成された総合型クラブの活動エリアの拡大に向けた市町村等の取り組みを支援し、総合型クラブの活動がスポーツを通じて「新しい公共」を担い、コミュニティの核として県内全域で展開されることをめざし、地域住民の日常的なスポーツ活動の場づくりを推進する。</p>		
<p>総合型クラブの会員数を、平成 32 年度までに 18,450 人とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 30 年度	(目標値：平成 32 年度)
16,090 人	17,509 人	18,450 人
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①広域スポーツセンターの機能の充実</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○総合型クラブ連絡会や市町村巡回訪問等を実施し、総合型クラブの運営について情報提供や助言を行っている。</p> <p>□今後導入が予定されている登録認証制度については、広域スポーツセンター及び体育協会で協議が必要である。</p>	<p>P</p> <p>22</p>
<p>②公共性の向上に向けた市町村の取組への支援</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○九重町スポーツ推進計画の策定に係る委員会に参加し、計画への位置づけを働きかけた。また、総合型クラブの安定的な運営のための支援や事業委託について助言した。</p> <p>●市町村によっては、スポーツ推進計画の改定期間に働きかけができなかった</p> <p>□今後も、市町村スポーツ推進計画策定・改定期に総合型クラブを計画に位置づけるよう働きかける。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>③総合型クラブおおいたネットワークとの連携</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○クラブマネジャー養成初級講習会の運營業務委託や指導者の養成、啓発イベントなど連携して実施している。</p> <p>○広域スポーツセンター機能の一部を総合型クラブおおいたネットワークに移管するため、クラブマネジャー養成初級講習会の運營業務を委託している。</p> <p>□団体（SCおおいたネットワーク）の法人化に向け、協議を進めていく。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>④拠点施設とクラブハウスの整備・充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○拠点施設（公共施設内）及びクラブハウスを所有しているクラブは44クラブのうち37クラブが所有している。</p> <p>□公共施設の利活用については、市町村に対し働きかけが必要である。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>⑤組織の充実と整備・NPO法人格の取得</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○44クラブのうち14クラブが法人格を取得済み（1団体申請中）</p> <p>□法人格取得意向のあるクラブについては、法人の種類や取得までの手続きなどの情報提供をしていく。</p>	<p>P</p> <p>23</p>

## 【ライフステージに応じたスポーツイベントの充実】

目標		
<p>実施方法の工夫・改善や効果的な広報活動の確立、また、環境に配慮したイベントの開催や文化イベントの同時開催など、スポーツイベントの充実と質の向上に努め、スポーツに親しむ県民の増加や地域の活性化に寄与できる活動の場づくりを推進する。</p>		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①少年期のスポーツイベントの充実</p> <p>【県体育協会】 【体育保健課】</p>	<p>○本県スポーツ少年団では、各競技別交流大会や競技の枠を越え、全団が参加できる駅伝交流大会を毎年開催している。</p> <p>○全市町村で競技の枠を越え、団員や指導者がスポーツ活動・文化学習活動・野外活動等を行う交歓交流大会を行っている。</p> <p>○スポーツ少年団の指導者・団員登録者数は、平成27年度から4年連続で増加している。</p>	<p>P 25</p>
<p>②青・壮年期のスポーツイベントの充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○第71回大分県民体育大会は、42競技を開催し、17郡市から約8300名が参加した。総合開会式では、開催地の特性を生かしたアトラクションを実施するとともに総合型地域スポーツクラブの協力で開会式を盛り上げた。</p> <p>●過疎化の影響で人口の少ない郡市は、選手集めに苦慮している。</p> <p>□より多くの県民が参加できるように参加資格を検討する。</p> <p>○県民すこやかスポーツ祭は、38種目118を越える種目別大会を開催し、参加者数は過去最多となった。</p> <p>●ユニバーサルスポーツの実施が少ない。</p> <p>□ユニバーサルスポーツのプログラム増加を図る。</p>	<p>P 25</p>
<p>③高齢期・障がい者のスポーツイベントの充実</p> <p>【高齢者福祉課】 【障害者社会参加推進室】</p>	<p>○平成30年度に開催した第29回豊の国ねんりんピックには、約5,400名が参加した。</p> <p>□今後も市町村と連携し、豊の国ねんりんピック参加者の増加を図る。</p> <p>○県内の障がい者スポーツの祭典である「平成30年度第13回大分県障がい者スポーツ大会」では、17市町村から、個人種目（陸上競技、フライングディスク、卓球、水泳、ボウリング、アーチェリー）に延べ1,237名の競技者が、参加した。</p>	<p>P 25</p>

## 【地域の特性を活かした活動の場の充実】

目標		
<p>市町村と連携し、地域の潜在的なスポーツ資源の発掘と関連設備の整備、また、観光資源等と組み合わせたスポーツツーリズムを推進するとともに、刊行物の作成やインターネット等を活用した情報提供を積極的に行い、広く県内外から多くの人々が集い、活動し、交流できる場づくりを推進する。</p>		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①豊かな自然を活かしたスポーツ活動の場の整備 【観光・地域振興課】</p>	<p>○大分県地域活力づくり地域創生事業補助金により、健康増進や地域の活性化を目的として、佐伯市大入島の自然や景観を活かしたトレッキングコースを整備した。 ●阿蘇くじゅう国立公園や祖母・傾・大崩ユネスコエコパークなど、県内の豊かな自然の中でよりスポーツ活動ができる場が必要である。 □国立公園満喫プロジェクトや祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの取組の中で、活動の場の整備を進める。</p>	<p>P 26</p>
<p>②身近で取り組めるスポーツ活動の場の整備 【観光・地域振興課】</p>	<p>○大分県地域活力づくり地域創生事業補助金により豊後高田市・国東市のレンタサイクル導入を支援し、市民が気軽にサイクリングをできる環境を整備した。 ●クロスバイク・ロードバイク等、従来よりも速度の出る自転車の利用が増える中、良好な走行環境の整備が必要である。 □現在策定を進めている大分県版自転車活用推進計画の中で走行環境の整備を盛り込む予定である。</p>	<p>P 26</p>
<p>③天然・自然環境を活用したスポーツプログラムの開発とその情報提供 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○県内各地の豊かな自然環境を活用したスポーツ合宿誘致のための「オリ・パラキャンプ誘致、スポーツ合宿についての市町村担当者研修会」を実施した。 ●東京オリ・パラ競技大会終了後のレガシーづくりが課題である。 □東京オリ・パラ競技大会終了後も、スポーツ合宿の誘致ができる「キャンプ地大分」の情報発信に取り組む。</p>	<p>P 26</p>

## 【学校スポーツ施設の充実と有効活用】

目標		
<p>学校が地域のスポーツ資源として有効に活用されるよう、体育施設の整備・充実を図るとともに、県立学校体育施設の地域住民への開放を促進することで地域住民が日常的にスポーツに取り組み、交流できる場づくりを推進する。</p>		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>① 学校体育施設・設備の整備・充実 【教育財務課】</p>	<p>○平成29年度に佐伯豊南高等学校に相撲場を新設したほか、日田三隈高等学校、海洋科学高等学校、三重総合高等学校久住校の老朽化した体育館を改修した。平成30年度には情報科学高等学校の体育館を改修した。 □今後も大規模改修などを活用して体育施設の整備・充実を図っていく。</p>	<p>P 27</p>
<p>② 学校体育施設開放事業の推進 【体育保健課】</p>	<p>○県立学校を15校指定校とし、教育活動に支障のない範囲で体育館・グラウンドを無料開放している。 ●部活動が盛んな高等学校では開放が進んでいない。 □特別支援学校の開放校増加に向け、各学校に働きかける。</p>	<p>P 27</p>

## 【「みる」「ささえる」スポーツイベントの推進】

目標		
<p>県民のスポーツに対する興味・関心を高めるとともに、競技力の向上やスポーツを通じた地域の活性化に寄与できるよう、企画・計画・運営等を行うシステムを構築し、大規模スポーツイベントを計画的に誘致・開催する。</p>		
<p>スポーツ合宿の実施件数を、平成32年までに1,500件とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
1,165件	1,553件	1,500件
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①RWC2019の開催とレガシーの創造 【RWC2019推進課】</p>	<p>○ラグビーワールドカップ2019™日本大会において、大分ではプール戦3試合、準々決勝2試合の計5試合が開催されることから、会場整備、交通輸送、救急医療・危機管理、観光・おもてなし、広報・イベントの各分野において開催準備を着実に進めている。</p> <p>□大分開催のレガシーの一つとして、品位、情熱、結束、規律、尊重といったラグビー精神に触れることによるグローバル人材の育成を掲げており、大会を契機とした取組を進めていく。</p>	P29
<p>②国際大会や全国トップレベル大会の誘致 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○サッカー日本代表対ベネズエラ代表戦の国際試合が、平成30年11月16日（金）開催され、33,364人が観戦した。</p> <p>●サッカーだけでなく、他競技の大会誘致が課題である。</p> <p>□大分スポーツ公園総合競技場をはじめ、平成31年4月に竣工する武道スポーツセンターも含め、県内スポーツ施設への大会誘致に努める。</p>	P29
<p>③日本代表等のナショナルチームのキャンプ誘致 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○フェンシングW杯無錫大会に出場する日本代表ほか、海外チームとの合同事前キャンプを大分市（サーブル）、日田市（エペ）で、ワールドラグビーセブンズシリーズフィジー代表事前キャンプ（大分市）で実施した。また、パラパワーリフティングアジア・オセアニアオープン選手権に出場するラオス代表選手の事前キャンプを別府市で実施した。このほかに、パラバドミントンマレーシア代表（中津市）のキャンプの受け入れを実施した。</p> <p>●食事について、野菜・フルーツの量を増やしてほしい要望やベジタリアンやアレルギーの対応等があり、内容・提供の仕方が課題である。また、競技用備品について、老朽化が進み一部不具合があり更新が必要である。</p> <p>□今後も受け入れを実施していくとともに、食事の提供の改善や競技用備品の整備に努める。</p>	P29

<p>④子どもたちの観戦促進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○子どもたちにスポーツを身近に感じてもらうため、プロスポーツ選手の学校訪問や招待試合を実施した。また、ナショナルチームのキャンプ中には無料見学ができる場を設けている。</p> <p>●多くの競技が観戦できるようにすることが必要である。</p> <p>□子どもたちへスポーツの興味・関心を持ってもらうため関係団体へ働きかけを行う。</p>	<p>P 29</p>
<p>⑤スポーツイベントの活用の推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○キャンプ等の受入時には、地元住民との交流やイベントを実施し、各国の文化や競技を知る機会を設けることで国際交流や競技力の向上など地域の人材育成や県内の名所巡りにより情報発信を行い観光振興につなげている。</p> <p>●大会前の事前キャンプになると競技によっては、交流等に制限がある。</p> <p>□今後もキャンプの受け入れを実施し、交流の拡大を図っていく。</p>	<p>P 29</p>
<p>⑥スポーツツーリズムの推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○スポーツ合宿等に適した県内スポーツ施設の情報をワンストップで検索できるホームページ「大分県スポーツツーリズムガイド」により、県内スポーツ施設、宿泊施設、助成金制度等の情報を提供している。閲覧数の増加とともに、スポーツツーリズムも年々増加している。</p> <p>□県外から参加する各種大会において、「大分県スポーツツーリズムガイド」のチラシ配布による周知を図るとともに福岡・関東の大学への誘致活動を実施していく。</p>	<p>P 29</p>

## 【スポーツボランティア活動の推進】

目標		
一人でも多くの県民がスポーツボランティア活動に参加できるよう、競技団体や社会福祉協議会等と連携し、希望者の登録や活動機会の提供、また、スポーツボランティア研修会の開催等を行うシステムを構築する。		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①スポーツボランティアの啓発 【RWC2019推進課】 【芸術文化スポーツ振興課】 【体育保健課】	○大分トリニータのホームゲームを支える「大分トリニータボランティアの会」が組織されており、クラブのホームページや会長による講演などにより活動内容を紹介し募集を行っている。また、別大マラソンでは、従来から参加している企業のボランティア代表者へ啓発の協力をお願いしている。 ●スポーツボランティアとしての功績をたたえる顕彰制度の整備について検討できていない。	P 30
②スポーツボランティアの発掘と育成 【RWC2019推進課】 【芸術文化スポーツ振興課】	○ラグビーワールドカップ2019™のボランティア確保のため、既存ボランティア団体、企業、大学等へ訪問、また、各種メディアを活用して募集の周知を行ったことから、2,000人を超える応募があり、1,500人を採用した。 □今後は採用者を対象に大会サポートに必要な研修を実施する。 ○大分トリニータを支えるボランティアの会では、月例会議で前節までのホームゲームで発生した問題点等について改善策を協議し、スキルアップを図っている。また、別大マラソンでは、ボランティアにアンケートに回答していただき、次回への改善に努めている。 ●トリニータボランティアについては、会員の高齢化が課題である。また、1試合あたりの参加者数が夏場はナイトゲームになるため主婦層の参加が減り全体数が減ってしまう。（デーゲーム120人/試合、ナイトゲーム90人/試合） □企業や大学、専門学校等との連携を強化し発掘、育成に努める。	P 31
③スポーツボランティアの活用 【RWC2019推進課】 【芸術文化スポーツ振興課】	○大分スポーツ公園総合競技場で行われたラグビー日本代表対イタリア代表戦において、スポーツボランティア研修修了者を中心に約100名のボランティアを活用した。 ○大分トリニータボランティアについては、ラグビーワールドカップ2019™関係者と連携を図り、大会への参加により協力している。	P 31

## 【スポーツ情報の収集と提供】

目標		
県民が興味・関心を持ち、スポーツ活動に主体的に取り組めるよう、効果的な情報提供を行うシステムを構築し、ホームページや広報誌等の充実と情報の共有化、ネットワーク化をめざす。		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①スポーツ情報提供システムの構築 <b>【体育保健課】</b> <b>【県体育協会】</b>	○フェイスブックを活用し、全国の大分県関係者に競技力向上に関するスポーツ情報を提供している。 ●「スポーツ情報提供システム検討委員会（仮称）」の設置に向けた具体的な取組が進んでいない。また、競技力向上のみならず、年齢層に応じた日常のスポーツ活動も積極的に広報する必要がある。 □現状の広報活動を継続し、関係課と連携の上、システムの構築に向け取り組む。	P 33
②報道機関と連携した情報提供の充実 <b>【体育保健課】</b> <b>【県体育協会】</b>	○年2回の教育広報番組にて本県のスポーツに関連する情報提供ができた。（現在は、国民体育大会において活躍が期待される競技の紹介及びジュニアアスリート発掘事業の取り組みを放映している。） ●限られた時間の中で効果的な内容となるよう検討が必要である。 ●報道機関と最新の情報を共有することが必要である。 □報道関係者と連携し、県民への情報提供に取り組む。 ○体育協会HPを活用し、各事業の情報提供を行っている。 ●今後は閲覧者の要望等を把握し、更なる充実を図ってきたい。 ○大分県体育協会広報誌「スポーツ大分」には、新たにスポーツ医科学事業に係るコーナーを新設し、本会スポーツ医科学事業についても広く県民に情報提供を行っている。 ○スポーツ少年団事業において、報道機関と連携し、大会参加に向けて周知を行った。	P 33

## 【プロスポーツ・企業スポーツの推進】

目標		
プロ・企業スポーツチームと学校や地域をつなぐシステムの構築など、各チームが地域と協働できる環境整備を行い、地域がチームを支える機運を醸成し、「みるスポーツ」の定着を図るとともに、スポーツ教室の開催など企業が行う地域貢献活動を推進する。		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
① トップスポーツの推進 【芸術文化スポーツ振興課】	○県内プロスポーツチームを活用し、学校訪問やホームゲームへの招待試合により、スポーツを身近に感じてもらい、チームと学校や地域をつなぐシステムを構築するなど、トップスポーツを推進している。 ●医療施設からも訪問の要望があったため、募集の対象を広げる必要がある。 □募集の対象を広げ誰もがプロスポーツとふれあえる機を提供する。	P 34
② 県民のトップスポーツ観戦の推進 【芸術文化スポーツ振興課】 【RWC 2019 推進課】	○多くの県民がホームゲームに足を運び、プロチームを応援する契機とするため、県民の招待及び各種イベントを行う県民デーを開催し、観戦者の拡大を図っている。 ●新規ファン獲得による観戦者の拡大が課題である。 □ホームゲームでのイベント等の充実により、観戦したくなるような企画を検討する。 ○県内各地のイベントやメディアを活用してラグビーワールドカップ2019™やジャパンラグビートップリーグ、日本代表テストマッチ等の広報活動を行ってきた。今年の6月に行われた、日本代表対イタリア代表戦では、25,824人が来場した。 □ラグビーワールドカップ2019™では、レガシーとしてラグビーの魅力と感動の共有を掲げており、多くの観戦客で会場が盛り上がるよう、大分開催試合のチケット販促等広報活動に取り組む。	P 34
③ 競技力向上に向けた企業との連携・協力 【体育保健課】	○トップアスリートの就職支援に向けた説明会や採用企業交流会の開催を通じて、選手雇用が拡大するとともに、採用企業の増加にもつながっている。 ●雇用等の受け皿づくりの更なる充実に向けて取り組まなければならない。 □今後も企業との連携を強化し、競技力向上を目指す。	P 35
④ 地域貢献活動の推進 【芸術文化スポーツ振興課】	○県内プロチームの選手等を地域貢献活動として、小学校や総合型地域スポーツクラブ及びスポーツイベントに派遣している。 ●総合型地域スポーツクラブの応募に偏りがある。 □応募したことがない総合型地域スポーツクラブに個別に連絡をするなどして偏りをなくしていくとともに、今後も、プロチームが行う子どもたちへのスポーツの普及活動や県民との交流を推進していく。	P 35

## 【スポーツに関する顕彰制度の充実】

目標		
国際大会等で活躍したアスリートやその指導者、またアスリートを輩出した企業等の功績を称えるとともに、県民の多様なスポーツ活動を支える個人や団体等、県民のスポーツ活動の励みとなる顕彰制度の充実に努める。		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①顕彰制度の充実 【体育保健課】	<p>○国際大会や国民体育大会等の全国大会で優勝した個人・団体に対し、県民栄誉賞である県賞詞や大分県体育協会や学校体育団体が競技成績等に応じて表彰した。</p> <p>○地域のスポーツ振興に従事した、生涯スポーツ功労者やスポーツ推進委員功労者をスポーツ庁の制度で表彰している。</p> <p>●競技団体との表彰対象の情報共有が必要である。</p> <p>●スポーツ庁の顕彰制度では、地域スポーツ団体の推薦数が少ない。</p> <p>□これまでと同様に表彰対象となる団体・個人に対し、関係団体と連携し、表彰を行う。</p> <p>□市町村と連携し、優秀な地域スポーツ団体の情報を共有し、県体育協会表彰等への推薦を働きかける。</p>	P 36

## 【行政組織の連携とスポーツ関係団体の充実】

目標		
<p>スポーツ推進に係る行政組織間の連携を強化し、横断的なスポーツ推進体制を整備するとともに、健康・体力づくりや競技力の向上などに取り組むスポーツ関係団体の充実を図り、県民の豊かなスポーツライフを支援する。</p>		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①横断的なスポーツ推進体制の整備 【体育保健課】</p>	<p>○企画振興部と連携し、ラグビーテストマッチ（日本VSイタリア）の小中高生、約13,000人を招待した。 ●組織間相互で進捗状況の共有が必要である。 □今後も関係部局との連携を図りながら、更なるスポーツ振興に取り組んでいく。</p>	<p>P 37</p>
<p>②スポーツ関係団体の整備・充実 【体育保健課】</p>	<p>○障がい者体育協会と連携し、障がい者スポーツ大会と県民体育大会の合同開会式を企画している。 ●団体により、自立に向けた準備が必要である。 □各団体による研修会の実施をはじめ、組織の拡大・強化を図る。</p>	<p>P 37</p>
<p>③研究機関・医療機関・大学との連携 【体育保健課】</p>	<p>○競技力向上に向け、県成人病検診センター等と連携し、スポーツ医科学を活用することができた。 ●大学や研究機関と連携を図り、横断的なスポーツ推進体制となるよう整備が必要である。 □現状の課題を関係機関と共有し、各種事業に取り組む。</p>	<p>P 38</p>

## 【スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備】

目標		
<p>県立スポーツ施設の計画的な整備・充実を図るとともに、大分スポーツ公園を本県のスポーツ拠点施設として整備します。また、県民のスポーツ活動を支える支援体制の整備とあわせて、本県スポーツ振興の基盤づくりを推進する。</p>		
<p>人口1万人当たり公認スポーツ指導者登録数を、平成32年までに16.3人とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
14.5人	17.7人	16.3人
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
<p>①県立スポーツ施設の整備・充実 【体育保健課】</p>	<p>○新たな屋内スポーツの中核施設として、大分県立武道スポーツセンターを設置した。 □県立総合体育館については、大分県立武道スポーツセンターが機能を代替できることから、県有施設としては廃止し、2020年4月に大分市へ移管する。</p>	P 39
<p>②屋内スポーツ環境の充実 【屋内スポーツ建設推進室】</p>	<p>○5月の開館に向け、県域の中核施設としての機能を発揮できるよう競技団体等と連携して施設建設及び備品整備等に取り組んだ。 □屋内スポーツ環境の充実に向け、効果的な管理・運営を行うため、整備段階で構築したネットワークを最大限活用できるよう指定管理者との連携を強化する。</p>	P 39
<p>③支援体制の整備 【体育保健課】 【健康づくり支援課】</p>	<p>○県民のスポーツ活動における支援体制の整備に向けて、事務局レベルでスポーツ医科学機能の活用について、協議を重ねている。</p>	P 39

## 【スポーツ推進のための財政基盤の確立】

目標		
本県スポーツの推進に不可欠な財政基盤を確立し、限られた財源を適切かつ有効に活用する。		
具体的な取組	○成果・●課題・□今後の取組等	項
①協賛企業とのパートナーシップの創出 <b>【体育保健課】</b> <b>【障害者社会参加推進室】</b>	○企業の協賛を受け、「総合型クラブ交流会」を実施した。 また、企業とSCおおいたネットワークが連携し「スローエアロビクス」の指導者を養成している。 □現状として、おおいた国際車いすマラソン大会の協賛企業及び大分県障がい者体育協会の賛助会員の募集、大洲総合体育館自動販売機の売上げの一部寄付等を行っているが、十分とはいえず、今後も拡充の方針である。	P 41
②財源確保に向けた具体的な取組の検討 <b>【体育保健課】</b> <b>【県体育協会】</b>	○総合型クラブ巡回訪問や総合型クラブ連絡会において、財源確保について、県内総合型クラブの成功事例や取組など、情報提供している。 ●スポーツ振興くじ（toto）の助成期間の終了や市町村の補助金減額などに伴い、クラブの財源確保については今後の大きな課題である。 ○自主財源の確保に向け、大分県体育協会賛助会員、スポーツ振興協力金、広告協賛金を募るとともに、自動販売機の設置を行っている。	P 41
③助成事業等の積極的な活用 <b>【体育保健課】</b> <b>【県体育協会】</b>	○スポーツ振興くじ（toto）の助成を受け、県民体育大会の財源や総合型地域スポーツクラブの普及・啓発パンフレットを作成している。 □今後も継続して助成事業を活用していきたい。 ○本会の各種事業（国民体育大会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等）の実施状況を広く県民に周知するため年4回発刊している「スポーツ大分」に係る経費やスポーツ少年団駅伝交流大会において、スポーツ振興くじ（toto）助成事業を活用している。	P 41
④効果的な施策の実施と市町村の取組の促進 <b>【体育保健課】</b>	○大分県スポーツ振興基金地域スポーツ団体振興事業では、郡市体育協会実施事業の一部を補助している。 □スポーツ推進に係る事務事業評価により、事業の効率化・適正化を図るとともに、行政サービスの質の向上に取り組んでく。	P 41

